

---

# 先生のおもちゃの不幸

姉子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

先生のおもちゃの不幸

### 【Zコード】

Z9370E

### 【作者名】

姉子

### 【あらすじ】

昔の彼は優しかった。一人っ子の私にとつて、彼は理想の兄であった。しかし、今ではそれももう幻だ。なんてつたつて、彼は満面の笑みで思いつきり仕掛けてくるのだから。

私、浅本みおりは自慢じゃないが勉強が苦手、というよりも恐怖だ。

わからないと言ってしまえば簡単だが、受験を控えた私はそんな悠長している場合ではない。

誰もが通る道だ。

だからやらなければいけないのは重々承知で、努力はしている。一応。

しかしそんな私の甘さを一刀両断する恐ろしい悪魔がいる。

「何考てる？お前にそんな余裕があるのか？」「す、すみません！」

私が勉強に対し恐怖を抱くようになった原因もある。名前は浅本透、私の兄であり担任もある。

私が生まれた時からお世話になっていた名前は松木で、それが浅本となつたのは中学に入ったのと同時だった。初めて会つたのは入学式の2週間前で、そこではまだ同じ学校に通う事は内緒されていた。

入学式当日、驚いたなんてもんじやなかつたのは今でも覚えている。

「・・・いい度胸だな、みおり。久々に俺を怒らせたいんだな？」「め、滅相もない！申し訳ありません！」めんなさい！許してください？」

さいーー

「もう遅い

最初は優しくて頼りになる、理想の兄そのものだつた。

一人つ子だつたから尚更で、私は家でも学校でもべつたりだつた。

それが突如豹変したのは、2年の最後のテストの結果を見せたときだ。

私は勉強を教えてくれたりしたらもつと一緒にいられるかも、と下心ありで見せた。

結果的には私の思い通りになつたのだが。

酷すぎる、と。

このままでは自分も恥ずかしい、と。

わかつてはいたがまさかこれほどまで、と。

青い顔をしたかと思うと、透は立ち上がり私の手を引いてリビングを出た。

たどり着いたのは私の部屋だつた。

厳密に言つと名ばかりの勉強机の前だつた。

これからはトイレと風呂以外この場から立ち去ることを禁ずる。

それは空耳にも思えた。

しかし透は私の肩に手を置き、泣く子も黙る鬼のよつた形相で私を見下ろしていた。

「いだあああ！……」

「ははははーみおりが悪い子だからだぞー」

それから私が逃げ出したり、集中してなかつたりすると問答無用で  
最強関節技の腕ひしきをきめられた。

その時の透の輝きつぶりと言つたら。

どこの世界に満面の笑みで妹に技をかける兄がいるのだらうか。  
これは私の知らない常識の一つなんだろうか？

「ギブーー許してーーー！」

「まつはははーそう簡単に許してやるかー」

今日も絶好調のようだ。

そして私は、今日も関節を痛めつけられ涙を流すばかりだ。

（後書き）

いつもは女の子の方が強いですが、今回は逆と云うことで。  
私は鬼畜の男も好きですから！（爆）  
でも鬼畜っぷりをあまり発揮できずに終わってしまい、少々残念です。  
機会があればもう一回鬼畜を出していきますので、感想くださいね（笑）  
それではまた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9370e/>

---

先生のおもちゃの不幸

2011年1月16日00時44分発行